

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 30 日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463199

研究課題名(和文) 歯学教育における説明・指導場面の医療コミュニケーション教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a health communication program on how to inform and instruct patients in dental settings

研究代表者

鈴木 一吉 (SUZUKI, Kazuyoshi)

愛知学院大学・歯学部・講師

研究者番号：80281468

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)： 歯科における患者教育，説明・指導のコミュニケーション教育については，その教授法が十分確立されていない．そこで本研究は患者の感情面に着目する動画を作成し，医療者と患者のコミュニケーションを読み解き，それに基づいて教育プログラムに関わる教材を開発した．さらにこのプログラムを授業で活用し，その学びについて質問紙調査を行い授業の評価を行った．その結果，本研究で開発したプログラムは患者の感情面に注目した動画教材の活用が学生の今後の学習に対する意識の向上や患者の立場を配慮したコミュニケーションの重要性の気づきを促せる可能性を示し，歯科医療コミュニケーション教育において有効となることが示唆された．

研究成果の概要(英文)： Pre-graduation health communication programs on how to conduct medical interviews are usually restricted to the setting of the first clinical interview and examination. These programs teach the fundamentals but do not adequately address how to manage the emotional aspects of patient care. We developed a video production that simulates clinical scenes where dental healthcare professionals instruct patients with various personalities, social backgrounds, and levels of awareness about healthcare. We used the video as educational material in classes and evaluated its validity. This realization created an awareness that can lead to future learning. These findings suggest that videos emphasizing the emotional aspects of patient care improve awareness about future learning and promote recognition of the importance of health communications that consider the situation of patients. Therefore, videos can be useful educational materials for dental health communication programs.

研究分野： 歯科医学教育

キーワード： 医療コミュニケーション 説明・指導

1. 研究開始当初の背景

患者に対する医療者のコミュニケーションスキルの低さが問題となっている^{(1),(2)}。

歯学部における卒前教育において、共用試験 OSCE (オスキー) の導入をきっかけとして初診時医療面接教育⁽³⁾⁻⁽⁵⁾は成果が上がっているが、患者への説明・指導のコミュニケーションについての教育は、その教授法が十分確立されていないために教育成果が十分とはいえない。

特に、歯科領域ではブラッシング(歯磨き)指導に代表される患者の行動変容を求める場面では高度なコミュニケーションスキルが必要である。例えば、「歯磨きが面倒だ」などの感情面への対応のスキルの教育方法の確立が急務である。

<参考文献>

- (1)上藤美紀代. 医療現場に求められる生命倫理 医療者のコミュニケーションと声の力. 医薬ジャーナル. 47 巻 4 号 P1190-1194(2011.04)
- (2)水流聡子. 地域医療における医師と患者のコミュニケーションの構造. 日本公衆衛生雑誌. 39 巻 12 号 P891-899(1992.12)
- (3)志村俊郎(日本医科大学 教育推進室), 吉井文均, 吉村明修, 阿部恵子, 高橋優三, 佐伯晴子, 藤崎和彦, 阿曾亮子, 井上千鹿子. 医学部・医科大学における模擬患者・標準模擬患者養成および参加型教育に関する実態調査, 第 16 期日本医学教育学会教材開発・SP 委員会. 医学教育 42 巻 1 号 P29-35(2011.02)
- (4)小川哲次, 田口則宏, 石川裕子. 本学歯学部 2 年生への早期ヘルスコミュニケーション教育 模擬患者を用いた問題立脚型講義法について. 日本歯科医学教育学会雑誌. 18 巻 2 号 P454-460(2003.03)
- (5)鈴木一吉, 山口正孝, 落合栄樹, 松本 享, 中村 洋, 市民ボランティアによる模擬患者参加型の初診時医療面接実習. 日本歯科医学教育学会雑誌 第 29 巻 第 2 号 P112 - 21. 2013 年.

2. 研究の目的

患者の感情面に着目する動画を作成し、医療者と患者のコミュニケーションを読み解き、それに基づいて、歯科医療コミュニケーション教育プログラムに関わる教材を開発することが第 1 の目的である。さらに、このプログラムを歯学部 5 年生対象の「医療コミュニケーション実習」で活用し、授業終了時、作成した動画教材を用いた授業の評価を行い、感情面に注目した動画教材の有用性について検討することを第 2 の目的とした。

3. 研究の方法

研究は、歯科医院でのブラッシング(歯磨き)指導の場面、および歯の抜歯(歯を抜く)の説明の動画教材を作成し、医療コミュニケ

ーションについての教育プログラムを開発した。さらに、このプログラムを実際の授業で使用し、プログラムに対する評価を行った。

4. 研究成果

以下(1),(2),(3)の3つの結果を得た。

(1)患者の感情面に注目した動画(DVD)の作成(台本作成および撮影:教材作成)

教材用 台本概要:

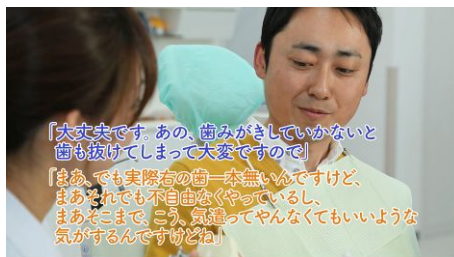
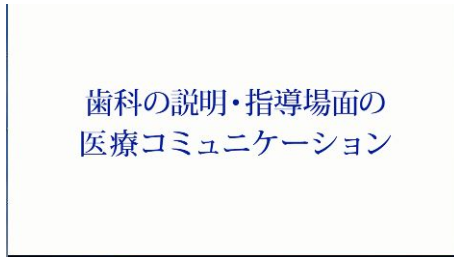
- ・歯科医院での説明・指導(ブラッシング指導場面(歯科衛生士と患者)と、抜歯の説明場面(歯科医師と患者))の対応に苦慮する場面(計4場面)について考える動画教材。
- ・ブラッシング指導(2場面)
 - ・ブラッシングその1. 頑固な患者佐倉翔子さんと歯科衛生士のやりとり (LEARN のモデルを中心に考える教材)
 - ・ブラッシングその2. 調子のよい患者一宮悟さんと歯科医師のやりとり (行動変容の無関心期を中心に考える教材)
- ・抜歯の説明(2場面)
 - ・抜歯1. 話を聞かない患者岩田隆さんと歯科医師のやりとり (解釈モデルを中心に考える教材)
 - ・抜歯2. 悲観的な患者松本純子さんと歯科医師のやりとり (Bad News Telling を中心に考える教材)
- ・上記各場面は、各々次の4つのシーンから構成。

「シーン1: 苦慮する実際の治療室場面[苦慮編](約3分)」「シーン2: 苦慮する場面の抽出[ダイジェスト編(字幕入り)](約2分)」「シーン3: 患者さん(模擬患者)に治療室場面の感情をインタビューする: 感想編(約2分)」「シーン4: 良好な場面の紹介: 解説編(約3分)」(計約10分)「ダイジェスト編」は「苦慮編」で撮影してある映像からピックアップする。

作成した DVD (下図)



作成動画の場面（抜粋）



(以下の図 6 枚は授業に使用した課題文)

S-VI 説明・指導場面の医療面接 その1

作業解説
 ①佐倉翔子さんのブラッシング指導の動画を見ながら、
 ②気になったところを配布したトランスクリプトにチェックを入れる。
 ③そして、見終わってからプロダクト用紙1を完成させる。

■配布
 ・トランスクリプト 佐倉翔子さんのケース
 ブラッシング指導場面
 ・対応に困る場面 プロダクト用紙1

S-VI 説明・指導場面の医療面接

動画を観終わったら、トランスクリプトにチェックしたところを参考に、
 まず 感想を記入
 「やりとりで気になった点」を記入する。

【記入 プロダクト用紙1 (1)】

(1) 回答欄
 私は (a) の
 (b 「) が
 (c) 感じた。
 (e) 思った。」

次に 改善を書ける
 どのように改善したら良いか考える。
 【記入 プロダクト用紙1 (2)】

(2) 回答欄
 私は (d) が
 (e) 良いと思った。
 または
 f まったく思いつかない

S-VI 説明・指導場面の医療面接 その2

作業解説
 ①患者さんの気持ちの動画を見て、
 ②患者さんの気持ちをふまえて、どこがポイントになるかをトランスクリプトにチェックする。
 ③そして、見終わってから、プロダクト用紙2を記入する。

■配布
 ・トランスクリプト 佐倉翔子さんのケース
 患者さんの気持ち
 ・対応に困る場面 プロダクト用紙2

S-VI 説明・指導場面の医療面接

動画を観終わったら、トランスクリプトに記入したチェックポイントを参考に、

【プロダクト用紙2 (3)】

(3) 回答欄
 私は (a) の
 (「 b) から
 (c) と感じた (思っ
 た) 。

S-VI 説明・指導場面の医療面接 その3

作業解説
 ①あらかじめ佐倉翔子さんのケースを見て、
 ②気になったところを配布したトランスクリプトにチェックを入れる。
 ③そして、見終わってからプロダクト用紙3を完成させる。

■配布
 ・対応に困る場面 プロダクト用紙3

S-VI 説明・指導場面の医療面接

動画を観終わったら、トランスクリプトにチェックしたところを参考に、
 まず 感想を記入
 「やりとりで気になった点」を記入する。

【記入 プロダクト用紙3 (4)】

(1) 回答欄
 私は (a) の
 (b 「) が
 (c) 感じた。
 (e) 思った。」

次に 改善を書ける
 どのように改善したら良いか考える。
 【記入 プロダクト用紙3 (5)】

(2) 回答欄
 私は (d) が
 (e) 良いと思った。
 または
 f まったく思いつかない

(2) 上記(1)の教材を、歯学部5年生対象の「医療コミュニケーション実習」で活用した。

(3) 「医療コミュニケーション実習」において、プログラムの評価を行った。
 受講学生に次に示す質問紙調査を実施し、授業に対する評価を行った。

問．この授業のあなた自身や友人のプロダクト成果に関連して、今後の臨床実習の間に実践や学習したいと思ったことを箇条書きにしてください。

上記質問に対して以下の回答が得られた。

- ・ 患者さんが否定的になっていかないように、まずこちらが否定しないようにする
- ・ 患者さんとの会話の中で、患者さんの不安や疑問に気づくことができるように気を配る
- ・ 自分の言い分よりも患者の意見を大事にすることをまず考えたい
- ・ インストラクターの会話についてよく聞いておきたい
- ・ 失敗例や改善例などが分かってよかった
- ・ 患者さんに悪いことばかりでなくよい点も伝えられるようにする
- ・ 実際に起きてしまった悪いケースをもう少し見てみたい
- ・ 客観的に自分の言い方を見られるようにしたいと思った
- ・ 患者さんの視点でわかりやすくしたい
- ・ 患者さんが考えていることと歯科関係者が考えていることは異なる
- ・ 本当は何を思っているのか探ることも大切だと思ったので実践したい
- ・ 相手の立場で物事を考えられる歯科医師になれるようにする
- ・ 患者さんの不安をわかってあげながら説明できるようにする
- ・ 患者さんの気持ちをよく理解した上で自分の考えを話す
- ・ できるだけ患者さんがわかりやすい説明をし、一緒になって治療をがんばりたい
- ・ 実技の時に患者さんがポジティブな気持ちになれるようにする
- ・ 患者さんが理解しやすい言葉を用いて説明したい
- ・ 患者さんが納得できるように治療を行う理由を説明したい
- ・ 患者さんのモチベーションが上がるような言い方ができるように工夫したい
- ・ 実際にやってみたい

(4) 結論

感情面に注目した説明・指導の歯科医療面接の動画教材の利用は、学生が“患者との会話の中で不安や疑問に気づくことができるように気を配る”ことや、“患者に悪いことばかりではなくよい点も伝えられるようにする”ことの重要性に気づき、動画教材を通して次への学

びにつながる意識が芽生えた。

本研究で開発したプログラムは、患者の感情面に注目した動画教材の活用が学生の今後の学習に対する意識の向上や患者の立場を配慮したコミュニケーションの重要性の気づきを促せる可能性を示し、歯科医療コミュニケーション教育において有効となることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計1件)

鈴木一吉，堀場直樹，川合里絵，江幡香里，柴田直樹，中田和彦，歯科の医療コミュニケーションにおける指導場面の動画教材作成，愛知学院大学歯学会，平成29年6月4日，愛知学院大学楠元キャンパス（愛知県名古屋市）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 一吉 (SUZUKI Kazuyoshi)
愛知学院大学・歯学部・講師
研究者番号：80281468

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

小川 哲次 (OGAWA Tetsuji)
広島大学・大学病院・名誉教授
研究者番号：50112206

木尾 哲朗 (KONOO Tetsuro)
九州歯科大学・歯学部・教授
研究者番号：10205437

藤崎 和彦 (FUJISAKI Kazuhiko)
岐阜大学・医学部・教授
研究者番号：60221545

吉田 登志子 (YOSHIDA Toshiko)
岡山大学・医歯薬学総合研究科・助教
研究者番号：10304320

(4) 研究協力者 なし